

『 人間1人と猫2匹と 鳥一羽の4人暮らしの日々 』



こんにちは、勝間和代です。2019年の4月から、私は生まれて初めて1人暮らしをしています。子供達が就職や大学生活などで全て独立し、またパートナーが仕事の都合で京都に住んでいるため、東京の家で1人暮らしをしている訳です。

1人暮らしと言っても、実は全く寂しくありません。その理由はなんととっても2匹の猫と一羽の鳥に囲まれているからです。

猫はあおちゃんとちろちゃん、それぞれ12歳と6歳です。あおちゃんは白黒のブチ猫、ちろちゃんは三毛猫です。

2匹とも保護猫出身ですので、いわゆる雑種です。あおちゃんはそれでも何となく洋風っぽくてちろちゃんは純和風っぽい体型をしています。

元々私は猫を飼う気はなかったのですが、娘がどうしても猫を飼いたいと言って根負けして、最初のあおちゃんを貰ってきて、さらに、娘があおちゃん1匹だと寂しいだろうということで、私に全く相談せずがちろちゃんを貰ってきて、計2匹になりました。

おまけに他の家と同じですが、娘は就職の時に独立してしまい、独立した家はペット不可ということなので、そのまま猫は実家に残り、そして実家に1人残ってる私が主担当でかわいがることになったということです。結局お母さんが世話をするという世の中あるあるですね。

それでも動物は何が可愛いかと言うと、本当に世話をしてくれてる人に懐くということです。あおちゃんもちろちゃんも1日の半分以上は寝ていますが、起きてる時は本当に私の半径1メートル以内を離れずにずっとそばにいます。

そんなに2匹ともくっついてなくてもいいんじゃないかと思うんですけども、私が大体原稿を書いているパソコンの周りにちょこんと座ったり、膝に乗ったり足に乗ったりしています。

昼間は私が家を空けることも多いので、そうすると、玄関に私が着いた音が聞こえると2匹揃ってリビングの窓から首を出して、まだかまだかと私がリビングの扉を開けるのを待っています。

オカメインコのいちごちゃんはずっと古くて、娘が小学生の時にひなから飼い始めたので、もう16歳ぐらいだと思います。よく鳥と猫一緒に大丈夫なのと聞かれますが、もともと鳥が最初にいましたし、猫達もちょっかいを出すと私に怒られるということがわかっていますので、争いなく一緒にいます。

いちごちゃんは鳥なので膝に乗ることはありませんが、それでも顔を近づけるといつも一緒に歌を歌ってくれたり、こちらのほうをじっと見て和ませてくれます。猫が来る前はよく放鳥をしていたのですが、猫が来てから放鳥ができなくな

ってしまってちょっとかわいそうなことをしてるなと反省中です。代わりに大きな鳥かごをオーダーで買いました。

家を住み替える時にも、リビングのどこにいちごちゃんのカゴを置くかということがインテリアデザインの優先事項で、テーブルも特注して部屋のど真ん中にいちごちゃんがずっといてくれています。

私はその泣き声が当たり前過ぎて全く気にならなくなってしまうのですが、私と電話会議をする人は鳥の鳴き声がいつもしていると教えてくれました。

私たち人間のエゴで、ずっとこんな狭い家に閉じ込められている2匹の猫と鳥です。生きてる間十分出来る限りのことをしてあげたいと思っています。体を清潔に保ち、トイレやエサについても気を遣い、そして病気の予防をし、病気の兆候が少しでも見えたらすぐお医者さんに連れていく、そんなことをいつも心がけています。

どんなに大事にしても、鳥や猫達もいつかは寿命がきます。その日が来るのを想像すると、今でも涙ぐんでしまいますが、その日が来るまではずっと一緒に飼い遂げようと思います。

経済評論家 勝間 和代



勝間 和代
~~~~~

